

# いはゆるロジカルペアリング (ISO 2530:1975 を中心に)

Taqumi TuZino

<i>esc</i>	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	_	=	~		del
—	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	-	^		
<i>tab</i>	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	@	{	[	<i>return</i>
<i>control</i>	A	S	D	F	G	H	J	K	L	+	*	}	]	
<i>shift</i>		Z	X	C	V	B	N	M	<	>	?	/	\	<i>shift</i>
<i>space</i>														

	!	"
\	1	2
<i>tab</i>	Q	
<i>control</i>	A	
<i>shift</i>	Z	

上段は逆L型リターンキーをもつ鍵盤、  
下段は一文字型のリターンキーをもつ鍵盤での配置。

- ・黒字は、これらの配列のなかで骨格になる部分である。
- ・赤字は、ISO 2530:1975規格の配列(strictly sense)である。
- ・緑字は日本語キーボードで採用されてゐる配列である。  
赤字(ISO 2530)のうち左端の上端・下端のキー「|」と「\」が、対角線上に移動してゐる。
- ・青字は、筆者の推奨である。「0」の1ビット違いとなるペアはスペースだがスペースは既に独自のキーをもってをり空いてゐる。逆にアンダースコア「\_」は相手がdelで、これも独立にキーをもってゐるので空いてゐる。両者を組合せると「\_」のキーを別に用意する必要がない(といふか、US配列のキーボードでロジカルペアリング配列するために無理に当てはめた)。

_	=	~	del
0	-	^	
	~	{	}
	@	[	]
	*		
	:		<i>return</i>
?	/	\	<i>shift</i>

Diagnosis: この配列はロジカルペアリング(logical pairing)配列といい、別名でテレタイプ配列とも呼ばれてゐる。後者の理由は昔のテレタイプで採用されたためである。多くの日本語キーボードはこの配列を骨格にしてゐる。

比較: ANSI配列---いはゆるASCII配列(ただし、この名称は後述する理由で相応しくない)または 英語配列(英国には別の配列もあるのでこの名称も相応しくない)やUS配列と呼ばれる配列---と比べてみるとqwertyであるところは同じだか記号が異なる。一番違いがはっきりするのは「2」のshiftと「P」の右隣である。「2」のshiftはロジカルペアリングでは「"」であるのに対して、US配列は「@」である。一方、「P」の隣はロジカルペアリングでは「@」になるが、US配列では「[」だ。

詳細: この配列では、あるキーに割りあてられた2種類(shiftなしとあり)の文字の文字コードが、互いに1ビットしか異なるらないように配置されてゐる。そのため、回路やプログラムのロジックがすっきりしており、ロジカルペアリングと呼ばれたものと考えられる。たとえば、「2」と「"」の文字コードは、それぞれ0x32と0x22で、2進数で示すと00110010と00100010であり、1ビットしか違わない。ここでいふロジカルとはASCII(のコード表)に照してロジカルといふことだから、US配列をASCII配列といふことはロジカルには適当ではない(ただし慣習的にさうなつてゐる。慣習はロジカルより強い)。

余談: 1960--70年代に広く使はれてゐたテレタイプの配列をもとにして、1975年、ISOはこのキー配列を規格として制定した(USでもANSI X4.14-1971として規格化されてゐる)が、その後、USはロジカルペアリングを捨て、1982には別の配列(今のUS配列)をANSI X4.23-1982として制定した(規格をめぐる主導権争ひを勘繰ることができるともいふ)。日本はISOで制定されたところに、計算機が普及したので、日本ではこの配列が標準となつた。

まだ、キーの使用頻度は言語ごとに違ふため、それぞれの言語で独自にキー配列を制定してゐる。たとえば、zが多いのがyはほとんど使はれないドイツ語では、zとyのキーが交換されてゐる(qwertz)。qwがazになつてをり、aの位置にq、zの位置にwが配置されてゐる(フランス語ではwはあまり使はれない)。フランス語は異なるが、欧州の各国ではISOの中心であることもあつて、ロジカルペアリングをもとにした配列が通用してゐる。ただし、追加アルファベット(β ç æ ô ä)を配置するためにならかなり改変されてゐる。